

2018 年度国際ユース作文コンテスト

【子どもの部】 優秀賞

## 私が学校で変えたいこと

(原文は英語)

イエアツォ・ドーカル・ギエルチェン (12 歳)

ブータン・パロ県

ドゥルクギエル・セントラル・スクール (小学部)

ブータンは山の多い平和な国です。国民は互いに調和して生活しています。ですが、平和な国だからといって何の問題もないわけではありません。どの国にも問題はあって、時代の移り変わりと共に変化が必要とされています。

ブータンにある問題の一つに「廃棄物」があげられます。この国の廃棄物は目にあまる状態です。空きビンやプラスチック、紙くず、古い布切れなどがいたるところに捨てられています。廃棄物のせいで、別の汚染が発生し、人間と動物の生活がおびやかされ、ブータンの昔からの自然が破壊されています。

廃棄物が森に捨てられると、動物がそれを食べて病気になったり、死んでしまったりします。森は汚染され、木や植物がうまく育たなくなり、生態系が破壊されます。雨が降る時や、モンスーンの時期になると、廃棄物にふさがれて雨水が地面にしみこまなくなります。廃棄物は分解されないの、森のあちこちで悪臭が漂います。これが空気汚染につながり、その結果、動物たちが新鮮できれいな空気を吸うことができなくなります。

廃棄物が捨てられると、私たちの多くが心配しなければならない問題がもう一つ起こります。水中に捨てられた廃棄物はそこに暮らす動物にも影響を与え、水質汚染や病気、感染症といった多くの被害をもたらす、動物の命を奪います。水が汚染されると、水中の動植物が暮らす環境がひどくなり、やがて清潔な飲み水がなくなる時が来ます。

町ではどの店でも店先にゴミ箱を置いていますが、ゴミが散らかっている場所はなくなりません。イベントなどがあっても、ゴミをゴミ箱に捨てる人はいないので、イベントが終わるとその場所はゴミのじゅうたんのようです。捨てた後にどうなるかも知らずに、自然に分解されるゴミもそうでないゴミも捨てていきます。

私は、小さな一人の子どもとして、ゴミの管理の大切さを訴えることで学校内に変化を起こす、変化の担い手になりたいと思っています。そのためにはまず、私が入っている「ピア・ヘルパー・クラブ」の仲間に私が考えるゴミ管理計画を手伝ってくれるようお願いしようと思います。そしてゴミを処理することの良い点と悪い点を説明します。朝礼でゴミの管理について自分からスピーチをして、自分が出したゴミは、自分で捨てることの大切さに気づいてもらおうと思います。保健のコーディネータ

ーさんたちに助けをもらって、毎月クリーン作戦を行い、自分たちの地域をいつも清潔に保つ活動に全員が参加して、一人ひとりが責任を持つようにしたいと思います。

また、クラブの仲間に助けをもらって、校内のいたるところに回収容器やゴミ箱を置き、そうしたゴミ箱をうまく使うよう他の生徒たちに働きかけます。それから、クラブの皆でペットボトル回収競争を計画して毎月実施します。ペットボトルを集めて学校に持ってくるよう呼びかけるのです。そして先生たちの助けをかりて月に1回、集まったペットボトルを売り、売上げの10%を一番多く集めた生徒にプレゼントします。残りのお金は、ゴミ管理運動の実行費用にあてます。ペットボトルだけでなく、古本の回収も呼びかけようと思います。

学級委員にお願いして、飲み物やお弁当を持ってくる時には、繰り返し使える容器や袋を使ってもらうよう生徒に呼びかけてもらいます。包装されたファストフードやプラスチック製の袋でお弁当を持ってこないように働きかけ、ゴミは正しい場所に捨てるか自宅に持って帰ることを習慣にします。

一人ひとりがゴミを管理する規則をしっかり守れば、手遅れになって国の問題になる前に、ゴミ問題を解決して、この国の森や水、環境を昔のきれいなまま残すことができると私は強く信じています。だからこそ、もう一度言います。私は、変化の担い手になって、学校をゴミゼロ地帯に変えたいのです。